

家畜衛生情報誌

『 一 支 国 』

2015. 秋号



<H27.9月 吉岐動物愛護フェスティバルにて>

吉岐振興局農林水産部 吉岐家畜保健衛生所

〒811-5734 長崎県吉岐市芦辺町国分本村触1385-1 TEL : (0920)45-3031

E-mail : s13230@pref.nagasaki.lg.jp

FAX : (0920)45-3386

海外における口蹄疫および鳥インフルエンザ発生状況

口蹄疫については、6月以降、東アジア地域での新たな発生は確認されていませんが、引き続き注意が必要な状況です。鳥インフルエンザについては、9月に韓国のある農場で高病原性鳥インフルエンザ（H5N8）の発生が確認されています。これから渡り鳥の本格的な飛来シーズンを迎え、ウイルスの侵入リスクが更に高まります。農場へのウイルス侵入防止のため、飼養衛生管理の徹底強化をお願いします。

2015年9月28日現在





韓国における高病原性鳥インフルエンザ（H5N8亜型）の発生状況（2015年9月～）

家きんでの確認件数：
7件（5市・郡・区）



放牧による低コスト経営を目指して ～害虫・寄生虫対策を行いましょう～

放牧地には、アブ、ハエ、ダニ等の吸血昆虫が生息しています。これらは家畜に吸血ストレスを与えるほか、ウイルスや寄生虫などの病原体を媒介するため、駆除や予防対策を継続して行うことが非常に大切です。

	マダニ	シラミ	アブ	サシバエ、ノサシバエ
特徴	<p>差し込み型の口器を持ち、牛体を刺した後、数日間は皮膚に吸着したままで吸血します。十分に吸血すると地面に落ち、光を避けて石の下などに潜み、次の宿主が近づくの待ちます。</p>  <p><small>フタトゲチマダニ：背面 フタトゲチマダニ：吸血後（左）と吸血前（右）</small></p>	<p>種によって決まった宿主にのみ寄生し、激しい痒みを引き起こします。</p>  <p><small>ホントかゆいんだってばっ!!</small></p>	<p>わが国には約100種が生息。大型種の吸血量は約500mgにもなります。</p> 	<p>○サシバエ 発生時期：晩夏～秋 主な発生源：堆肥場 ※吸血時のみ寄生 ○ノサシバエ 発生時期：盛夏 主な発生源：放牧地の牛糞 ※吸血に関わらず寄生</p>  <p><small>サシバエは鋭い口器で刺す</small></p>
媒介病原体	小型ピロプラズマ原虫	小型ピロプラズマ原虫	牛白血病ウイルス 小型ピロプラズマ原虫	サルモネラ菌などの病原菌を機械的に媒介
対策	<ul style="list-style-type: none"> 外部寄生虫駆除剤（ブアオン法、イヤータッグなど）の定期的な投薬 <p>※ブアオン剤は背中線に沿って頭から尾根部までしっかり投薬してください。また、牛体が濡れていると効果が激減するので注意してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部寄生虫駆除剤（噴霧、ブアオン法） アブ捕殺用ボックスの設置 <p>※トラップの設置場所や自作方法については当所へお問い合わせください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 堆肥の適切な処理や堆肥に対する薬剤散布（幼虫用殺虫剤による発生源対策） 外部寄生虫駆除剤（噴霧、ブアオン法、イヤータッグ） 	

近年、全国的に高齢化による飼養頭数減少が叫ばれ、牛不足の状況ですが、吉岐の島においては低コストにより投資を抑え、併せて観光地吉岐の島の景観保全と、新たに取り組みやすい放牧を活用した繁殖経営を島場に推し進めていきたいと思っております。

興味をお持ちの方は、吉岐市役所農林課・吉岐振興局・JA吉岐市家畜部まで御問い合わせ下さい。

薬は正しく使いましょう！

動物用医薬品を正しく使用して、安全・安心な畜産物を生産しましょう。

安全・安心な畜産物を生産するためのポイント

- ① 薬は獣医師の指示に従って使用しましょう。
- ② 投薬中や投薬後の動物・畜舎には表示を行い、出荷時に休薬（出荷制限）期間を間違えないようにしましょう。
- ③ 出荷する動物や牛乳・卵を出荷している動物は治療記録を確認しましょう。
- ④ 書類や帳簿を保管しましょう。
 - ・動物用医薬品の購入記録や使用記録
 - ・動物用医薬品指示書や出荷制限期間指示書



平成27年度長崎県和牛共進会 壱岐地区代表牛選考会開催！



10月29日に雲仙市の県南家畜市場で開催される、平成27年度長崎県和牛共進会へ向けた壱岐地区代表牛選考会が、9月16日に壱岐家畜市場で開催されました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、多くの観客が見守るなか、4つの出品区にあわせて42頭が出場し、熱い戦いが繰り広げられました。

厳正な審査の結果、各区3頭、計12頭が県共進会へのキップを手に入れました。

代表牛が県共進会でも優秀な成績を収め、壱岐の和牛増頭と育種改良に勢いがつくことに期待します。



平成27年度壱岐動物愛護フェスティバルが開催されました

9月19日（土）に、イオン壱岐店横しばふ広場において「平成27年度壱岐動物愛護フェスティバル」が開催されました。動物とのミニふれあい動物園や対州馬への乗馬体験、動物クイズなど、様々なイベントが行われ、老若男女約220名の参加がありました。各イベントを通して、生き物に対する愛情と命の大切さを実感していただけたことと思います。



子牛の防寒対策 ～寒い冬に備えましょう～

子牛は被毛や皮下脂肪の量が少ないため、寒さに対する抵抗力が低いです。快適に過ごせる温度の範囲も育成牛や繁殖牛に比べて狭く、5℃以下で発育が停滞します（表参照）。さらに乾燥した冬はウイルスが増殖しやすい季節であるため、寒冷ストレスによる免疫力低下によって、呼吸器病や下痢の発症リスクが非常に高くなります。

子牛が今年の冬をより快適に過ごせるよう、寒冷期の飼養管理について再確認してみましょう。

しっかり保温してあげましょう！

その① 冷風をからだに当てない

夏は風を通すことが重要ですが冬はその逆。風は体感温度を大きく下げます。牛舎の出入口を閉めたり、隙間風を防ぐことが大事です。ベニヤ板やダンボール、ブルーシート等を利用して熱を逃がさないようにしましょう。

その② からだを濡らさない

濡れていると多くの熱を奪われます。牛床を糞尿で湿ったままにしないで常に清潔に保ち、乾燥した敷き藁を厚めに敷くなどの工夫が必要です。

※生産性に影響を及ぼす気温

その③ 冷たいものに触らせない

気温が低いと金属やコンクリートなどは冷たくなります。直接からだに触れないように工夫しましょう。

その④ 水や飼料の管理

冷たい水はからだを冷やしてしまいますし、飲みたがりません。お湯を与えることも有効です。また、体温維持のために多くのカロリーを消費するので、ミルクや餌の量を増やすことで正常発育を心がけましょう。

その⑤ からだを直接暖める

ヒーターや子牛用防寒着、ネックウォーマーを利用するのも有効です。



換気も大切！

風に当たると体温が低下してしまいますが、だからといって牛舎をずっと閉め切っているとアンモニアガスやホコリ等が増え、それらが刺激となり呼吸器病を引き起こす危険性が高くなります。天気の良い日中は牛を外に出して、その間に換気をするなど、換気は定期的に行いましょう。